

むつ市下水道整備新年度休止

大きい財政負担 社会情勢変化も

むつ市が2023年度は新たな下水道整備を行わない方針を固めたことが30日分かった。新規整備のため特別会計予算に毎年5億円程度計上してきたが、23年度予算案には盛り込まない。市は財政負担が大きいことに加え、人口減少といった社会情勢の変化や浄化槽の性能向上により、下水道の必要性が低くなったこ

とを理由に挙げている。

23年度に有識者による評価委員会を設け、24年度以降の整備について議論する。

市は効率的な汚水処理と水洗化率上昇を目的に、1995年に下水道整備に着手し、2003年から利用を開始した。1739軒で整備を予定していたが、現時点で終了したのは計画全体の32%。整備完了までには六十数年かかり、費用も300億〜400億円必要

になる見通しという。

新規整備を休止しても、下水道は引き続き使用することができ、市は市民に利用を呼びかけていく考え。合わせて、浄化槽設置に関する補助も拡充していく方針だ。

村田尚公営企業管理者は取材に「整備の状況を見ながらやめるタイミングを見極めてきた。今後は接続率を伸ばすことで、少しでも経費の回収に努めたい」と述べた。（山内はるみ）